

**国際保健政策人材養成ビジョン  
を受けた厚生労働省の対応について  
(案)**

厚生労働省大臣官房国際課

## 厚生労働省におけるグローバル・ヘルスに関する人材・体制強化 (現在取組中)

「保健医療2035」において、グローバル・ヘルス・リーダーとして、日本が世界の保健医療を牽引していくために、以下の提言がされている。

- ・グローバル・ヘルスを担う人材の育成体制の整備
- ・官民一体となって人材をプールする仕組みを創設
- ・厚生労働省内の人材の還流や職員のキャリア開発の支援

提言を受け、厚生労働省は、以下のような取組を開始している。

1. 国際保健に関する懇談会の設置
2. 米国保健福祉省やCDCに厚生労働職員を継続的に派遣
3. 感染症危機管理専門家養成プログラムを通じた人材養成
4. 若手厚労省職員における国際キャリアパスの構築
5. 大臣官房国際課の体制強化
6. 薬事規制の国際調和体制推進のための体制の構築

# 3つの戦略を遂行するための厚労省の9つのアクション (隗より始めよプラン)

戦略3…持続可能な国際保健人材養成システムのメカニズム化

⑨司令塔機能を厚労省附属施設に設置

戦略1: オールジャパン・産官学協働による国際保健人材養成の推進

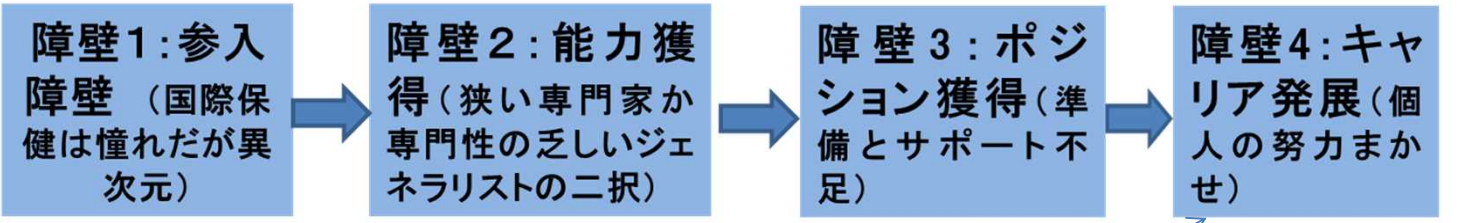
⑤国際保健案件への全省対応体制と他省庁・機関連携体制の構築

①邦人職員の協力を得てキャラバン啓発

②産学官の相互インターン、ジュニアスタッフを国際会議に派遣

③2017年にリクルートミッション受け入れ、事前情報と人事戦略確定

④20名程度の重点候補者への個別支援



⑥付属機関実施関連研修の拡大と教材の開発共有

⑦人材リストの整備

⑧厚労省内において国際保健スペシャリストを養成する人事改革

戦略2: ライフステージを踏まえたキャリア開発の国際保健人材養成システムへの戦略的統合

# 厚生労働省における更なるアクションポイント（案）

## 1. 厚生労働省における組織の意識・体制の改革

国際機関において主要な地位を占める人材を多く輩出するため、国際的活躍を目指す人材については、1～2年毎に多部署の経験を積ませるジェネラリスト養成ではなく、特定の分野を長期に経験し、かつ国際機関等の経験豊富な分野特定型の国際スペシャリストを養成する人事制度を構築する。

## 2. 国際保健案件への全省体制、及び関係省庁・機関との協力体制の確立

グローバルなルールメイキングを行うWHO等の国際会議に、厚労省を中心に、専門家、関係省庁が一体となって対応する体制を構築する。このような体制を通して、国際会議や、厚労省国際部門・関係課において、ルールメイキングの経験・能力を獲得するための機会を提供する。

## 3. 国際保健政策人材養成司令塔（「グローバルヘルス人材戦略センター（仮称）」）の設置

オールジャパンで、継続的に国際保健政策人材を国際的組織への送出および国内組織での受入を支援をしていくために、国際機関空席情報等の必要な情報収集・分析・発信を行い、人材プールを保持しつつ、関係機関間で、人事におけるリボルビング・ドアのハブ機能をもつ司令塔を設置する。